

PSC/JBIC 細胞株の培養法

1. 樹立文献

(PSC 細胞株について)

Establishment of B-cell lines derived from 996 Japanese individuals.
Naoyuki Kamatani, Manabu Kawamoto, Yutaka Kitamura,
Masayoshi Harigai, Tkeki Okumoto, Yasuhiro Sumino
Tiss. Cult. Res. Commun. 23:71-80 (2004) (in Japanese)

2. 輸送

凍結細胞チューブをドライアイス詰め宅配便にて発送します（通常は火曜日に発送）。

3. 保存

凍結チューブを保存する際は、 -80°C 以下のフリーザーまたは液体窒素タンク（気相）で保管して下さい。液体窒素タンクの液相部分には浸漬しないでください。液体窒素中へ浸漬した為にチューブの僅かな隙間から液体窒素が浸入し、取り出し時に急激に膨張して容器が爆発する事故が起こっています。

凍結チューブの取り出し・融解時には、厚手の手袋とフェイスガードを必ず装着し、作業の安全には細心の注意を払ってください。

4. 融解

凍結チューブは 37°C 中で急速融解してください。凍結液中には 10%DMSO を含みます DMSO 除去のため、10 mL の新鮮培地に懸濁し、遠心してください。

5. 培地

10%牛胎児血清を含む RPMI-1640 培地（抗生物質の添加は任意）をご使用ください。

6. 培養法

通常の血球系細胞株と同様、 CO_2 インキュベーター内、 37°C にて培養できます。

pH の変化（黄色になる）、細胞塊の増加を目安にして、継代してください。
いずれの細胞株も大きな細胞塊を形成するので、継代時に数回ピペティングし、細胞塊を壊し、新鮮培地にて 4~5 倍の希釈が適当です。

凍結チューブを融解後、5 mL の培地（ 25cm^2 フラスコ）でスタートすると、2~4 日後に飽和状態。4~5 倍に希釈すると 3~5 日後に飽和状態になります。

7. バイオハザード

Epstein-Barr ウイルスその他のウイルスが産生されている恐れがあります。取扱いには注意してください。

8. 登録番号

ヒューマンサイエンス研究資源バンクでは、各資源に登録番号を付しています。PSC 細胞株に対しては、PSCCAxxxx、JBIC 細胞株に対しては、JBICxxxx（x は数字）です。なお、凍結チューブのラベル表示としては、PSC 細胞株の場合、psc-axxxx、JBIC 細胞株の場合、健常人由来は Txxx、尋常性乾癬患者由来は Kxxx、慢性関節リウマチ患者由来は Rxxx、糖尿病患者由来は Dxxx と記載しています（x は数字）。

以上